

PAC3岐阜基地への配備始まる ミサイル防衛は戦争への道

「北ミサイル」迎撃準備始める防衛省―まるで宣戦布告

進行する地域の軍事化―軍需産業の影響力拡大



二月二六日未明PAC3が岐阜基地（各務原）に搬入、配備されました。岐阜基地に二つある高射隊のうち今回は第13高射隊に配備されました。残りの第15高射隊と白山基地（三重）、饗庭野基地（滋賀）には今年夏前までに配備される予定です。

上の写真は岐阜基地へ向かう搬入部隊の車列です。この写真では見にくいかもしれませんが、二六日中日夕刊一面に掲載されたこの写真に愕いた人は多かつたかもしれません。

PAC3システムは午前三時前に三菱小牧北工場を出て高速道路を経由して岐阜基地に搬入されました。岐阜県警を中心に三〇〇名規模の警察官が警備したと新聞は伝えていきます。

この写真を見るとPAC3はあらゆるところを軍事基地にする。街中いたるところを軍事統制するというのがよくわかります。

PAC3システムは知ってのとおり、射程距離が一〇〜二〇キロ程度なので「防衛」対象の

近くに展開する必要があります。展開場所や移動中は当然軍事基地と同様な厳重な警備がなされることとなります。展開する場所もかなりの広さを要します。

PAC3システムは発射装置、レーダー装置、射撃管制装置、情報調整装置、



無線中継装置で構成されています。さらに隊員の待機、休息するためのハウスカー、キッチンカー、給水車、トイレなどが付随します。それ以外にも工作に必要な資材などの運搬や保管のための施設も設置されます。警備部隊、警察部隊も加わります。状況によっては陸自も警備等に出動してくるかもしれません。総計で数百人規模になる可能性もあります。文字通り移動する軍事基地です。これらの部隊の移動経路も当然封鎖状態になります。その現実の一部を今回の搬入写真は私たちに見せてくれました。

前頁の写真は現行のPAC2システムです。構成は基本的にPAC3と同様です。上の発射装置の奥右側が隊員待機、休息用のハウスカ、左奥が管制装置などです。下の写真右側がキッチンカーです。これらが展開すれば公園の一角を占めるなどというものではありません。かなり広いスペースが必要になります。



上の写真は岐阜基地の第四高射群本部です。岐阜基地の南西側の小高い山の上にあります。

今回地元各務原市への通知は搬入前日二十五日午後だったそうです。機密保持のためかもしれません。これでは一方的な通告です。まるで戦前のようなです。

一方の各務原市も情報を市民に公開することもありません。安全性や搬入に堪しうたの安全確保などの説明や申し入れもありません。

情報をきちんと開示することが本来に求められます。

二七日には地元の「岐阜基地へのPAC3の配備の中止を求める会」代表の海野さんの呼びかけで抗議、申し入れ行動を岐阜基地へ対して行いました。不戦ネットも「東海交流会」として申し入れをおこないました。

— 私たちの街が軍事色で染まってしまう —

PAC3は私たちの街に軍事基地を出現させるだけではありません。PAC3も含めた軍需産業は愛知—東海地方への影響を強めています。PAC3システムは三菱の小牧北工場でライセンス生産されています。それ

だけではありません。

いま官民あげてこの地域を軍需産業（特に航空宇宙関連）の集積地にしようとしています。特に愛知県は自動車に変わって航空宇宙産業を育成しようとしています。三菱の民間ジェット製造を口実に一層の航空宇宙産業の拡大を図っています。二〇一二年には名古屋に航空宇宙展を誘致、名古屋空港隣接地には土地を提供し国の研究機関を誘致しました。現在東海地方は航空宇宙産業の国内生産高の約五割を占めています。このなかで三菱や川崎重工の兵器生産が大きな役割を持っています。三菱はH2ロケットなどの大型ロケット（ミサイル？）も作っています。従来平和利用に限定されていた日本の宇宙基本法も軍事利用の道を開きました。これ以上航空宇宙産業が東海地方に集積されると本当に軍事の街東海になってしまいます。多額の税金が軍産官の利権の闇に消えていきます。

「北ミサイル」撃墜を準備—ミサイル防衛発動

二七日産経新聞は北朝鮮のミサイル撃墜を政府が検討と報じました。同日の会見で浜田防衛相は肯定的な発言をしました。三月三日この文章を書いている最中に、中日WEBではMD用のイージス艦を日本海に配備し日本へ向けられたミサイルを撃墜できるように準備していると伝えました。これでは宣戦布告と一緒です。政府や自衛隊が一方的に戦争を開始しようというのです。こんなことは絶対に許してはなりません。ミサイル防衛は戦争への道といってきたことが本当になります。

私たちの平和への想いの強さと行動が問われています

（早見 章）